

令和7年度（2025年度）学校評価報告書

園名	宝塚市立安倉幼稚園	園長名	赤松 明子
----	-----------	-----	-------

1 学校教育目標

心身ともにたくましい幼児の育成
-----------------

2 重点目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 豊かな経験が広がる保育の充実をめざす</li> <li>○ 家庭・地域と共に育ち合う幼稚園づくりをめざす</li> <li>○ 心豊かな教師集団づくりを進め、教師の資質向上をめざす</li> </ul>
--

3 学校自己評価結果（A：優れている B：良い C：おおむね良好 D：要改善）

領域	評価の観点及び評価項目	達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手紙の配信や降園時の「おはなしタイム」、コドモンのドキュメンテーション、HP等を通し、園の取り組みや子どもの育ちについての発信に努めた。しかし、ドキュメンテーションは定期的でタイムリーな発信が必要である。また、手紙についてはデータ配信を基本とし紙媒体と工夫しながら発信し、ホワイトボードでのお知らせを減らしたことで、保護者が配布物に目を通す大切さを感じているように伺える。</li> <li>○ 参観日やオープンスクール、「運動会ウィーク」「ジョギングウィーク」等の行事を通して園の教育について理解を得ることができたと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職員が少なく業務が多い中、職員が発信していることが驚きである。忙しく大変な中、発信に努めているので評価をAにしてもよいのではないかと。また、コドモンやHPの発信も必要ではあるが、まずは実際の子どもの姿や保育を見ることが大切である。またその際は、保護者には子どもたちをレンズ越しではなく、温かいまなざしで見してほしい。</li> </ul>
	幼稚園づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティアを募ったり、「掃除ウィーク」「卒園式ウィーク」等を設けたりして、保護者の力をいかす工夫に努めた。また、栽培活動や安倉音頭、未就園児保育など地域の方の教育力を取り入れてきた。より保護者との関わりを深め、子どもが豊かな体験ができる保育の工夫をし、年間通して取り組めるように計画的に進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「〇〇ウィーク」のように様々な活動を工夫し、新しい取り組みを積極的に取り入れていることや地域とのつながりをつくろうとしていることが評価できる。園は評価をBとしているが、Aに変更してもいいのではないかと。</li> </ul>
	危機管理体制の整備	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 毎日・毎月の安全点検では、危険な箇所をその都度伝え合い、すぐに対応改善し、施設の安全管理の意識を高め取り組んできたが、子どもが怪我をしないような生活の仕方や保育の進め方等、職員一人一人が保育の中での危機管理意識を高めていく必要がある。</li> <li>○ 避難訓練などを定期的に行うことで、子ども自身が自分の命を守る教育に努めた。今後も様々な想定での訓練を実施していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 園庭が広く、管理が難しいが、日々点検が行われていることはよいことである。引き続き、危機管理意識をもって子どもの衛生・安全管理に努めていってほしい。</li> </ul>
	子育て支援の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 未就園児親子への支援を行うための保育の場を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 担任・園長・副園長と様々な立場から保護者に関わり、子どもを中心にしながら園と保護者が共に子育てをできる体制を整えていってほしい。</li> <li>○ 毎月の未就園児教室はもちろんのこと、運動会の未就園児のプログラムもよかった。また、安倉児童館の出前保育と園の未就園児教室の連携は安倉幼稚園ならではのことで、引き続き進めていってほしい。</li> </ul>
	子どもの成長を中心に据え、親と子の育ちの場としての役割を果たす。	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 送迎時や園庭開放時、個人懇談会等で子どもの成長について保護者と共に考え合ったり、喜び合ったりできる場を設けなければならなかったが、学級や個人によって偏りが出てしまった。一人一人の保護者に丁寧に関わり、寄り添えるように園全体で取り組み、意識を高めていく必要がある。</li> </ul>	

	<p>教職員の 資質向上</p>	<p>○ 教師間で、子どもの育ちについて話し合う機会をもつと共に、研修での学びを通して子ども理解に努める。</p>	B	<p>○ 子どもの育ちや保育の進め方の他、教師の悩み等、日々、教師間で話すことができた。また、園内での研究や様々な研修会に参加し、子ども理解に努めた。さらに教師の資質向上につながるような話し合いや研究研修を進めていきたい。</p>	<p>○ 教職員で連携を図っている様子が見られる。引き続き、研究研修に努めてほしい。</p>
教育課程	<p>基本的な生活 習慣の育成</p>	<p>○ 挨拶や身辺整理、手洗い等、園生活を通して、基本的な生活習慣や態度の形成を育む。</p>	A	<p>○ 基本的な生活習慣が身に付くよう、丁寧な指導を行ってきたことで、身辺整理や挨拶など自分からできる子どもが増えている。しかし、返事をする、話をきちんと聞く等、課題の残った学級もあるので、教師の意識をより高めていく必要がある。</p>	<p>○ 園に訪問した時に毎回、丁寧に手洗い・うがいをしている子どもの姿があり、丁寧に指導をしている様子が感じられた。 園は評価をBとしているが、Aに変更してもいいのではないかと。</p>
	<p>幼児期にふさわしい生活の 展開</p>	<p>○ 子どもが主体的に根気強く遊ぶ保育を実施し、環境の構成や援助、保育内容を工夫する。</p>	B	<p>○ 子どもの興味関心にそって遊びを展開していくことで、主体的に遊ぶ姿が見られた。また、竹馬やころりんジャンプ等、根気強く遊ぶ用具を意図的に取り入れると、意欲的に挑戦する姿が多く見られた。しかし、個人差もあることからしっかりと教師が確認して保育をしていく必要がある。</p>	<p>○ 安倉幼稚園の卒園児が小学校で様々なことに挑戦している姿を見た。「諦めずに取り組む」「根気強く遊ぶ」等、最近の子どもたちから見られなくなった中、安倉幼稚園では少し難しいことに挑戦しやり遂げる活動に取り組んでいることはよいことである。</p>
	<p>道徳性の芽生えの育成</p>	<p>○ 葛藤やトラブルを乗り越える体験ができるような場や機会を逃さず、諦めない心の育成に努める。 ○ 友だちとのかかわりから思いを伝えたり、相手を理解したりする力を育てる。</p>	B	<p>○ 保育の中で、自分の思いを言葉で伝えたり、友だちの思いを聞いたりすることを大切にしたい。特にトラブルが起こった際には、個々や時には学級全体で話す場を設け、子ども同士の思いを出し合いながら分かり合っていくように工夫した。 ○ 日々の生活や遊びの中で、友だちに思いや考えを伝え合いながら、友だちのよさや違いを受け入れたり、理解したりできるように支えてきた。より友だちを大切に思う気持ちが膨らむ保育の工夫が必要である。</p>	<p>○ 個々と学級での話し合いを工夫していると感じた。自分や友だちの心を大切にしたい保育に努めてほしい。</p>
	<p>校種間連携</p>	<p>○ 子どもの学びや育ちの連続性を大切にしたい保幼小連携を図る。 ○ 保幼小中支援学校と実態や課題を共有し、地域の子どもの育てるという意識をもちながら連携を進める。</p>	A	<p>○ 幼小連携では、小学校教員が子どもの遊びを参観し、「幼児期の学び」について捉える等、新たな連携に取り組むことができた。また、保育所と囲碁遊びを通して園所児交流を行う機会をつくった。今後、地域の実態や課題を共有し、架け橋期のカリキュラムの作成に向けて進めていく必要がある。そして、隣接校以外の小学校との子ども交流についても連携できるよう工夫していきたい。 ○ 管理職連携会議や副園長主査会での連携会議において、それぞれに子どもや地域の実態や課題を確認することができた。しかし、管理監督職中心で進めることが多いため、職員全員が安倉中学校区のめざす子ども像を意識し、積極的に連携教育に取り組んでいかなくてはならない。</p>	<p>○ 安倉中学校区は、連携が取れていると感じるが、隣接校以外は難しいということを知ったため、工夫が必要である。</p>
課題教育	<p>特別支援教育</p>	<p>○ 子ども一人一人の課題を明確にし、教職員全員で共通理解を図り、個々の発達に適した指導や支援を工夫する。</p>	A	<p>○ 全職員で個々の発達について、その都度、具体的に話し合いながら支援のあり方を考え、進めることができた。また専門の教員からの指導をいかにしながら、個々の特性に応じた支援を共有し、取り組んできたことが子どもの成長につながったと考える。</p>	<p>○ 一人一人の子どもの発達や課題に寄り添い、丁寧な支援ができていると感じる。</p>

	人権教育	○ 教師の人権意識を高めながら、人権尊重の姿で保育に取り組む。	A	○ 人権教育研究会や人権参観において、子どもの実態や課題を捉えたり、教材研究を深めたりして、人権教育を意識した保育に取り組むことができた。しかし、単発の取組になっているので、継続して保育に取り入れていく工夫が必要である。	○ 絵本の活用を増やしてもいいのではないかと。また、普段の生活が人権教育であるため、教師がどれだけ意識しながら保育をしているかが大事である。 園は評価をBとしているが、Aに変更してもいいのではないかと。
独自項目	伝統教育	○ 『あくらっこ太鼓』や『安倉音頭』の継承と共に、子どもの伝統文化や地域への親しみや意欲を育てる。	A	○ 『安倉音頭』は地域との交流だけでなく、保護者と共に踊る機会をもつことができた。また1学期に安倉音頭保存会の方に指導を受け、取り組みを早くから行い、安倉地域への親しみがより膨らむよう努めた。『あくらっこ太鼓』は、継続して取り組み、地域のイベントにも出演することで、広く発信することができた。今後も『あくらっこ太鼓』『安倉音頭』に取り組み、安倉幼稚園の特色・伝統として大切にし、継承していきたい。	○ 『安倉音頭』の早期実施や『あくらっこ太鼓』の地域発信等、積極的に取り組んでいることが、園だけでなく家庭、地域にも広がり、地域愛や地域を大切にしようとする心を育むことにつながっていると感じる。

#### 5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 行事ごとや年度末等、様々なアンケートや日々、保護者の思いや願いを聞きながら実施しているので、評価の方法として適切である。</li> <li>○ 「評価の観点及び評価項目」を早い段階に示されたことで、その評価の観点を基に、幼稚園運営をみることができたからよかった。</li> </ul>
---

#### 6 総合的な学校関係者評価

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今大切にしていることを継続し、今後も安倉幼稚園らしい教育を進めてほしい。</li> <li>○ 業務が多いことが心配であり、そんな中、教職員が協力して取り組んでいる。仕事の軽減ができればよいと感じる。</li> </ul>
--